

会議録（会議要旨）

会議名	第4回武蔵村山市内循環バス検討協議会
開催日時	平成19年9月27日（木） 午後1時30分から午後3時30分まで
開催場所	301会議室
出席者及び欠席者	<p>（出席者）</p> <p>委員：小堤 健司（小椋氏の代理者）、佐藤 達雄、金井 治夫、国田 正徳、斉藤 静子、茂野 宏美、高橋 薫、高橋 哲、樋口 豊子、比留間 勉、藤井 敬宏、副市長（敬称略）</p> <p>事務局：企画財政部長、企画政策課長、樋口 雅秀</p> <p>（欠席者）</p> <p>委員：石川 守、牧野 和宏（敬称略）</p>
議題	<p>1 報告事項</p> <p>（1）第3回市内循環バス検討協議会の会議結果について</p> <p>（2）市内循環バスロケーションシステムの稼動について</p> <p>2 議題</p> <p>（1）市内循環バスへの要望について</p> <p>（2）市内循環バスのあり方について</p> <p>（3）その他</p>
結論	<p>報告事項</p> <p>（1） 第3回検討協議会の会議結果について決定した。</p> <p>議題</p> <p>（2） 第5回会議については、10月26日（金）午後1時30分からに変更、第6回会議については、11月15日（木）午後1時30分からに仮決定した。なお、11月15日（木）に開催できない場合は、11月9日（金）に開催することとした。</p>
審議経過 （ は会長、副会長委員、 は事務局）	<p>報告事項1 第3回市内循環バス検討協議会の会議結果について</p> <p>事務局から「第3回市内循環バス検討協議会の会議結果」について説明。</p> <p>この会議結果で、何か御意見御質問はありますか。</p> <p>特になし。</p> <p>それでは特にないようですので、承認されたものといたします。何かありましたら後日でも結構ですので、事務局へお願いいたします。</p> <p>報告事項2 市内循環バスロケーションシステムの稼動について</p> <p>事務局から「市内循環バスロケーションシステムの稼動について」報告。</p> <p>パソコンや携帯電話から情報が取得できるということで、一つのサービスとして稼動した。今後、どう広げていくかが課題であると思う。</p> <p>広報の手段は。</p> <p>10月1日号の市報とホームページに掲載している。ホームページにおいては、直接バスロケーションシステムが閲覧できるようにリンクしているので利用していただ</p>

きたい。

住民の方からの問い合わせは。

問い合わせは受けていない。

路線バスは導入しているのか。

市内では循環バスだけである。定時性の確保がむずかしいので市民サービスとして取り入れた。

昔は20分、30分待つのは当たり前であったので、5分、10分待つのはたいしたことではないと思う。

定時性の確保がむずかしい中で、どのくらい待てばバスがくるのかなどをお知らせし、バス利用者の抵抗を少しでも減らす取り組みはいいと思う。1時間待つようなオーダーの中では利用者に対して情報を与えることはプラスになる。民間バスでも広く導入しようという動きもある。どういう形で市民に定着させていくのが大事である。利用実態を含めた上で検討していく必要がある。

循環バスはどのくらい遅れるのか。

統計的には把握していないが、東西横断ルートはあまり遅れないが、東西連絡ルートは運行距離が長いので遅れる可能性がある。

このシステムにどのくらい投資したのか。また、導入のきっかけは。

バスは待っていてもなかなか来ないということがある。時間はかかるのはしょうがないとしても、バス停に来る時間がわかれば少しは違うと思い導入した。経費は初期投資があったため、300万円程度である。

便利なシステムを入れてもらった。雨の日はバスが遅れることがある。

荷物があると携帯電話を出すのは不便である。バス停に屋根をつけてもらったほうがいいと思う。

バス停に屋根をつけるには、歩道が広い場所であればできるが、事業者の負担になるので、むずかしい面もある。路線バスと競合していれば別であるが。

事前に家を出る前に確認ができる。いかに情報を利用者伝えるのがサービスとなる。

議題1 市内循環バスへの要望について

事務局から「市内循環バスへの要望」について説明。

商業施設のバス停はどこにあるのか。

病院の東側に1ヶ所、自動車販売店の北側に1ヶ所である。

これ以外に協議会で検討していく上で、要望をまとめて出していただけでないか。要望についてはこれだけではないので、まとめて次回までに配布する。

今日、これだけを決めてしまうとアンバランスになる。

バス停の新設に関しては商業施設だけがスポット的に挙がってきている。全体のネットワークを見た上で議論していかなければいけない、考え方をどうするかを議論していきたい。

立川バスのルート変更についての線を引いてもらっているが、循環バスと重複することが出てくると思う。

民間との重複を考えると、全体を見て方針を考えていかなければいけないのかなと思う。具体的なルートが分かればできるだけ早く教えてもらい、協議会の中で検討したい。

瑞穂町のモールは独自でバスを運行している。市が商業施設に肩入れすると市民の足がなくなってしまうのではないかと。民間のことは民間に任せる方がいいのではと思っている。そうすれば、循環バスは市民サービスのみに供用できる。

循環バスにどのような利用者がいるか。通勤、通学や施設への足などの位置付けをしていくことが大事である。

かつては、声の大きい人の所にバスが来るということがあった。今回の協議会は料金設定もできるので、突っ込んだ話をしていきたい。

各ルートが商業施設に集中してくる。交通プラザを拠点としていくのかなど市が今後どのようにしていくのかが重要である。

かたくりの湯は市が地域を活性化していきたいとして市外の人にも来れるようルートを設定した。また、モノレールを延伸したいという部分でも上北台にバスを走らせて通勤、通学に使ったらどうかということで行っている。もう一方で玉川上水に入っている部分もある。跡地は活性化したいとの考えから病院を誘致した。交通プラザは交通空白地域の解消とこの交通プラザを中心にバスを運行したらどうかとのことから設置した。こういった経過から現在の路線を走らせている。

高齢者は買い物の足がないとの話も聞いている。バスをどのような目的をもって走らせるかは今後の課題である。

コミュニティバスは民間施設の利用促進として走らせている市もある。今回の協議会で民間のために使うべきではないという考えと日常生活の買い物の足の確保を行うという側面もあるのではないかと。交通プラザを乗換拠点としていくことも考えられる。

交通プラザの方向性はルートが長すぎるとの意見をいただいていることから拠点として考えられるのではと思っている。既存バスとの活用も図ったらどうかとの意見もいただいていることから、民間バス会社にルート変更を要請してきた経過もある。西武バスは現在、商業施設への乗り入れルートに変更している。立川バスは玉川上水から商業施設へ乗り入れている。

どう位置付けていったらいいのか。商業施設は市の中心にあるので、交通プラザを拠点としていきたいとの方向性はあるのか。通勤や買い物などの足としてといった、いろいろな考え方があるので、フリーに話をさせていただいて市民要望も踏まえて路線をどうしていったらいいのかを仮案の中で議論していきたい。

商業施設を拠点として充実させることは賛成である。市民ニーズが強いのは料金が低いことや路線の充実などであるが、民間活力を導入するなど、企業が個々で走らせているものを統合し、企業から負担をしてもらうことも可能であると思う。そういったことも検討していかないといけないと思う。渋滞緩和にも寄与すると思うし、商店街にバスを通すなどのことも考慮していかないと。検討して行きたい。

バスの経費については、他市はバス停に広告を載せて費用負担してもらうということも行っている。今後、費用を軽減するにはこういったことも必要になってくると思

う。市からも働きかけなければいけないと考えている。

議題2 市内循環バスのあり方について

老人福祉バスを走らせているが、利用率が少ないのでこれを止めてバスに転換していくこともできると思う。老人福祉バスの路線も出していきたい。

練馬区では、朝2時間、夕2時間に稼働する福祉バスを実際にコミュニティバスとして活用できないかという話があったが、障害を持たれている方はコミュニティバスを使うことはむずかしいところもあるが、どう組み込めるか検討する価値はある。

料金面は民間バスと重なっているとやりにくいところはある。料金を低く設定してしまうと赤字が増えるということになるが、ある程度のルート案が決定した時点で料金も検討していきたい。

大南の人が循環バスを利用する場合に、商業施設へ行く人がたくさん乗っていて立たなければいけない。今後、路線バスと循環バスの競合関係が分かる図面を出してもらいたい。

商業施設から要望があったものは、その施設の問題であって循環バスとは違うのではと思う。会社でも考えてもらいたい。

商業施設へアクセスすることで市民ニーズが高まるとする考えはあると思う。一つポテンシャルの高い施設がある。これを拠点として活用するなどの方向性をつくっていったということも考えている。

市民にとってメリットが高いルート設定をすることが必要であると思う。

商業施設からの要望については、現在のルートは時間がかかる、目の前にあるのに遠回りするということからお話した経緯もあるので御理解いただきたい。

市民からの要望を一度整理して、検討したいと思う。

循環バスの基本的スタンスは、市民の意見が第一であるべきである。交通空白地域を運行するなど、市民を中心としたものにしなければいけない。そのあたりをはっきりしておいた方がいいと思う。

コミュニティバスの需要の喚起からみれば、活性化させることにより運賃収入も上がるというスタンスも必要ではないか。

コミュニティバスと商業施設と一緒に活性化することもある。

病院もあるので、そこも考えていかなければいけない。

高齢者の足をどう考えるといった公共交通も考えていかなければいけない。

全体を需要喚起する上では、将来どのくらいの人が乗るのかという予測も必要である。

通勤、通学を主体に置くべきである。高校から定年まで大部分は外に出なければいけない。そういった世代に重きをおくことも必要である。また、交通弱者にとっては商業施設へいくことに不便を感じるだろうが、毎日行くわけではないので、わざわざ循環バスを利用しないのではないか。病院へ行くにしても武蔵村山病院以外へ行っている人は何とかしている。

今、市民アンケートを行っていて一次集計の話だが、3000件にアンケートを配布し、830件ぐらいの回答があった中で、利用している人の答えの目的は通学1

